

### 3/14 マタイの福音書 26 章 36-56 節 「父よ あなたが望まれるままに」

小池 宏明 牧師

よく、祈りとは、父なる神様と私との対話であると言われる。主イエス様の祈りから、私たちの祈りの生活を顧みよう。

#### \*ゲツセマネとは

聖餐式が制定された最後の晩餐の夜、主イエス様は、弟子たちとオリーブ山のふもとにあるゲツセマネの園に行かれた。ゲツセマネとは、アラム語で「オリーブの油搾り」という意味がある。園には、オリーブの木が生えていた。主イエス様はここで、まさに、その身も心も搾るような苦しみを体験しながら、祈られたのだ。

#### \*御父と御子との対話

主イエス様は、父なる神様に対してまことの子どもとして何でも祈ることができた。十字架の道は、すでに決まっていることで決して変更できないことである。それでも「過ぎ去らせてください」(39 節) と深い悲しみを、父なる神様に訴えることができたのである。イエス様が、ご自分の悲しみを率直に祈られるとするならば、私たちは、なおのこと、父なる神様の御前で、強がる必要も我慢する必要もない。私たちのどのような気持ちも感情も、主なる神様にぶつけて良いのだ。むしろ遠慮せずに、体当たりしてくる子どもたちのように、父なる神様にぶつけるように求めていいのだ。主は喜んで受け入れて下さるだろう。一方で、主イエス様は、もう一つ大切なことを、祈り求めた。それは、「父なる神様の望まれるままに」という祈りだ。イエス様は、父の御計画を、謙って受け入れようとしておられる。イエス様は一方的に訴えるだけでなく、父なる神様の御声を聴き取ろうとしている。これが祈りの対話なのだ。

#### \*祈りの交わりを深めよう

主イエス様は、弟子たちに「誘惑に陥らないように、目を覚まして祈っていないさい。」(41 節) と求めた。

ところが、弟子たちは、祈れずに誘惑に陥り、主イエス・キリストを裏切るといふ大きな罪を犯してしまった。ところが、主の弟子たちは、復活の主イエス様にお会いして、励ましを受けて、祈る群れへと創り変えられたのである。祈らずに大きな過ちを犯したので、同じ過ちを繰り返さないように、まことの悔い改めに至ったのだ。今も、キリストの教会（主にある兄弟姉妹たち）は、祈る群れなのだ。互いに祈り合う、とりなし合う、そんな集まりであり続けたい。

主イエス様のように、祈りを深め、悲しみも、痛みも、苦しきも、主の御前に差し出していく時に、いつしか迷いや恐れは消えて、平安と確信が与えられてくる。主の御心のままに、主が最善を成して下さる、と確信に導かれていくのである。